

在宅医療・介護連携推進事業：住民啓発（事例）

智頭町民生児童委員協議会定例会

テーマ： わたしの心づもり ～ACP（アドバンス・ケア・プランニング）のすすめ～

日時： 平成30年12月21日（金） 15：15～16：45

場所： 智頭町保健・医療・福祉総合センター「ほのぼの」 参加者： 32名

【内容】 地域包括ケアシステムの説明、DVD「我が家に帰りたい」第一幕のポイント、介護保険制度や自助・互助について解説。また、同DVD第二幕と、パンフレット「さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり」及び終活支援ノート「わたしの心づもり」を使ってACPについて啓発。

（概要）

前半は、地域包括ケアシステムや介護保険制度、自助・互助の視点を、第7期智頭町高齢者福祉計画・介護保険事業計画の内容を交えながら説明し、自らの生活を支え、寄り添い、協働して智頭のまちづくりを進めていくことが大切というお話をしました。後半は、「自分が意思表示できなくなった時にどうしてほしいか？」を参加者同士で話し合っていました。そしてACPパンフレット、終活支援ノートを用いて、一人で考えるだけでなく家族等と話し合うことが大切であり、その話し合いは繰り返し何度でも行っていくことが、本人や家族のために重要であることをお話しました。



【講師感想】

90分の研修を皆さんが熱心に聞き、今まで考えたことがなかったであろう「自分は（最期）どうしてほしいか？」ということに対して、色々な意見を話し合っていました。最後に「この話は夫婦で聞いた方がいいなあ」と言われた参加者がありました。そのとおりです。そしてそれは親子にまで発展し、家族で「心づもり」を普通に話し合えるようになっていただきたいと思います。

また、「終活支援ノートはどこで手に入るのか」との声もありました。地域包括支援センターでパンフレットと共にACPの概要を説明しお渡ししています。終活支援ノートの趣旨を理解していただいた上、ご活用をお願いします。

（講師：東部医師会在宅医療介護連携推進室 秋田和秀・廣山 恵）